

## 令和2年度 1月の保育園だより



## 十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて、「お正月の朝、早く来たものから12番目の者をその年の大将とする」と、言いました。猫はうっかりしていたので、ねずみに尋ねると、ねずみはわざと、次の日を伝えました。ねずみが牛のところに行くと、牛は、「歩くのがゆっくりだから早く出かけよう」というので、ねずみは牛の背中に乗りました。朝になり、神様の御殿の門まで来ると、ねずみは牛の背中から飛び降りて「私が一番！」とちゃっかり言いました。そして牛が2番。次々とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししと順番に入り、その年の干支にしてもらいました。猫はというと、次の日に行っても誰もいないので、門番に尋ねると、「顔を洗って出直してこい！」と言われました。猫が顔を洗うしぐさをするようになり、ねずみを追いかけるのは、この時からだそうです。

## 鏡開き

1月11日、神様にお供えしていた鏡もちを、木づちでたたいて開きます。「切る」「割る」は縁起がよくない言葉のため「開く」と表現します。「鏡」は円満、「開」は末広がりを意味しています。家族円満や1年間元気で過ごせることを願いながら、開いたおもちを食べましょう。


**学びは0歳児から**  
 ～できることより何かをしたくなる子に～

新年あけましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルス感染症が大流行し、いまだ世間を脅かしています。インフルエンザに関しては、三密を避け、マスクの着用や手洗い・うがいなど新型コロナウイルスの感染防止策が背景にあり、例年に比べ、低くなっていることは、ありがたいことです。特に今季は新型コロナとの同時流行が懸念されており、例年以上に手洗いやうがいなど徹底する必要があると思います。いずれにせよ気を緩ませずに過ごしてほしいところです。

さて12月に予定されていた、生活発表会が延期となり、子どもたちも保護者の皆様も楽しみにしていたことだと思います。子どもたちは、目的を持って友だちと一緒に取り組むことの楽しさや、難しさを感じたり、考えたり、自信をもったりと、発表会という行事を目の前にたくさんの学びがありました。では学びはいつから始まると思いますか？年長児？小学校から？いろいろと考え方はあるかと思いますが、当園では、0歳児からだと考えています。0歳から驚きや感動する体験をしていくことで、様々なことに興味や関心をもつようになります。また大人との心地よい関りの中で、愛着関係が形成されることで、自己肯定感が高まります。1～2歳にかけて、物や人への関りも広がっていき、自分でやりたい気持ちが芽生えてきます。

## 影と遊んでいる1歳児



やりたい気持ちを尊重しながら、「どうする？」と子どもに決めさせたり、選択させていくことで、気持ちの切り替えもでき、自分に自信もついてきます。そして幼児になると人との関わりの中で、真似してみたり、一緒にやってみたり、刺激し合っていく中で、自分にはない考えを取り入れ、遊びに幅が広がり、考えたり、工夫したり思考を働かせ遊ぶことが学びに結びついていきます。

知的なことや何かできるようになることも大切ですが、何かに興味や関心を持ったり、仲間と協働して取り組むなど、何かやりたくなるような意欲や心情など学びに向かう姿勢が大切で、そうすることで、達成感や充実感が得られ、「またやってみよう」「難しくても頑張ろう」と前向きに物事を考えられるようになり、おのずと相手の気持ちも考えられるようになっていくのだと思います。子どもたちが大人になっていくうえで自分らしく自信をもって、豊かな生活を送るために、子どもたちのやる気や気持ちに目を向けてみるのも大切なことではないでしょうか。

(主任保育士 松山 渉)

## 15日 とんど

門松や注連縄など正月飾りや、古いお守り、神札などを「とんど」の火で燃やしてお焚きあげします。その炎で暖まりながら 無病息災や大漁・豊作などを願う伝統行事を今年は、地域の方の協力のもと、園庭に小型のとんどを作り、規模を縮小しておこないます。  
\*家庭にある正月飾りなどありましたら1月12日～1月14日までに持参してください。

## 乳児保育参観

日時 1月23日(土) 午前9時15分～

詳しい時間や内容等については、後日またお知らせしたいと思っています。  
\*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用と、検温を実施します。体調がすぐれない方や体温が37.5℃以上の方は参加できません。コロナの感染が拡大すると中止になることもあります。ご了承ください。

**人と違うから辛いのではなく  
 違いを認めないから  
 辛くなってしまふのです**

私たち人間は、一人ひとり違うのです。あの子にはあの子の良さがあり、この子にはこの子の良さがあります。違いに気づき、違いを認めれば、羨むことはなくなります。私は私、人は人なのでから。

日めくり 子どもが育つ魔法の言葉  
 ドロシー・ロー・ノルト